

2007年(平成19) 10月

カルメル
霊性センターニュース



225号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

—バルバロ訳—



第一巻

第一章 キリストに倣って、世のはかないものを軽んじる

3 空しい知識

あなたに謙遜の心がなく、そのため三位一体に喜ばれないなら、三位一体について議論したところで何の益になるであろう？人を聖なる者、正しい者とするのは、深遠な言葉ではなく、徳に満ちた生活であって、それが神の愛を呼ぶのである。私は痛悔の定義を知るよりも、むしろその心を感じたい。もしあなたが、全聖書と全哲学説を知ったとしても、神への愛と神の恵みとをもたなければ、それが何になるであろう？神を愛し、神に奉仕する以外は、「空しいことの空しさ、すべては空しい」(コヘレト 1・2)。世間を軽んじて天の国に向かうことこそ、最高の知恵である。

4 すべては空しい

はかない富を求め、それに望みをかけることは、空しいことである。名誉を望み、高い地位を願うことも、また空しいことである。肉の欲に従い、将来重い罰を受けるであろう事柄を望むのも、また空しいことである。長生きを望むばかりで、よく生きることを心がけないのも、また空しいことである。今の生活だけに心を奪われ、未来のことに備えないのも空しいことである。ただちに過ぎゆくものを愛し、永遠の喜びのあるところに向かって急がないことも、空しいことである。

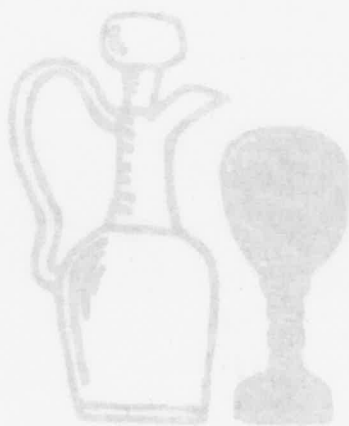
5 離脱

「目は見るだけで満足せず、耳は聞くだけで満足しない」(コヘレト 1・8) ということばをしばしば思い出しなさい。あなたは地上のものへの執着から心を断ち切り、見えないものに心を移すように努めなさい。実に、肉の声に従う者は、良心を汚し、神の恵みを失うのである。

心の泉



泉の心



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

——現代の十字架の聖ヨハネ——

帰天40周年にあたって (10)

洗礼のときに 私に刻まれた印

その恵みが与える
光と希望に気づくとき
人生という海に
錨を下ろしたようなもの。



神は私を愛され

私を呼んでおられる。

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

洗礼を受けてすでに「久しい年月」がたっているかもしれません。あるいは「ついこの間」・・・幼児洗礼であれ、成人洗礼であれ、その時私に刻まれた神の子の印を想いおこすことがあるのでしょうか。出会うさまざまな出来事、事柄を大波に揺れ動く舟のように日々生きているかもしれません。

「洗礼の恵みが与える光と希望に気づくとき、人生という海に錨を下ろしたようだ」とマリー・エウジェンヌ神父は言っています。「神は私を愛され、ご自分の子として、私を呼んでおられる」のですが、世間の価値観にひたきってしまうと、このことを私は感じることも理解することもできないので、大海の波に揺られ不安になるかもしれません。しかし、「私には果てしない希望がある。それは、神ご自身！」であるとマリー・エウジェンヌ神父は私たちに思い起こさせます。私の希望は私自身の可能性のうちにあるのではないのです。ラッキーな出来事のうちにあるのでもありません。「神ご自身、私たちを父として愛してくださる神」のうちにあることを日々の生活で度々思い起こしたいものです。そしてその神は私のうちに住まわれ、常に新たにしてくださるのです。もし、私が信仰のうちにおん父とかかわるなら・・・

「私の心の深奥におられ、働きかけられる神は、私の父。
ご自分のいのちを絶えず注いで、私を新たに創り変えてくださる。
神がご自身を与えられるこの深奥において、
私は、彼の子供としての愛をこめておん父とかかわることができる。
私の主であり、神である方は、私のうちに確かに住まわれている。」

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(28)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

感覚の刺激

私たちが感覚をむやみに刺激すると、活力がそれを通して穴のあいたバケツからもれる水のように流れ出てしまいます。身体的にも情緒的にも靈的にも私たちは消耗させられてしまうのです。感覚を刺激することに生涯ふける人は、弱々しい意志と人を愛するためにはわずかな力しかなく、疲労困憊してその生を終えます。けれども感覚を訓練するならば、私たちの活力、より高いゴールに必要とされる生命力をはぐくむことになるのです。

感覚の刺激の意味するところは、膨大です。歴史家アーノルド・トインビーは、私たちの文化を、靈的に深い土台を欠いた愚かな文化として特徴づけました。近代社会は、ますます感覚へ方向づけられたものとなってきています。つまり、人々は、本性上、過ぎ去るものでしかないもの、すなわち、目や耳や舌の一時的快樂や体の満足に、ますます絶望的にしがみつこうとしています。それは、いい悪いの問題ではなく、論理の問題です。もし私たちが永遠なるものによってのみ満たされる必要性を自分の内に感ずるならば、どうして流れ去ってゆくものでそれを満たそうとするのでしょうか。もし私たちが沈み行く船の中にいるならば、岸にたどり着く前に消えてしまうひとかけらの氷を手に入れようとするのでしょうか。むしろ私たちは、岸へ確実に導いてくれるしっかりした一片の木かボートを探すことでしょう。

感覚の訓練

感覚が訓練されるならば、それは心の最高の静寂に調和的に参与することになります。心を鎮める仕事は、私たちをより深い落ち着きと神の探求へと導くのです。「静まれ、私が神であると知れ」(詩46:11)。動物の世界では、感覚は主に、パートナーや食べ物や隠れ場を探すためのものです。人間においては、感覚は欲求を直接満たすための機能ばかりでなく、神の探求へと導くのです。「私を尋ね求めるならば見出し、心をつくして私を求めるなら、私に出会うであろう」(エレ29:13-14)。「私の目にあなたは値高く、尊く、私はあなたを愛する。恐れるな、私はあなたと共にいる」(イザ43:1-5)。神の探求は、聖なるものです。しかしイエスは、決して神のために危険を冒そうとしない人々のことについてこう言って

います。「この民は聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない。彼らの心は鈍り、耳は遠くなり、目は閉じてしまった。そうでなければ、彼らは目で見、耳で聞き、心で理解し、私に立ち返ったであろうと、神は言う」(マタ 13 : 14-15)。

あるのは五つの感覚だけか

外的感覚が五つだけあるということは、そのまま鵜呑みにすることはできません。これはアリストテレスのカテゴリーだからです。私たちは、普通受け入れているこれら五つの感覚以上の感覚を持っているのです。歩くこと、消化すること、寝ること等々。感覚は魂へのドアです。この感覚によって仲介されないならば、私たちは直接、魂に近づくことはできません。五つの外的感覚は、祈りにおいてとても有益であり、私たちは神に近づく時、その役割を過小評価してはならないのです。

感覚の機能は、魂の低い部分に触れ、霊に影響を及ぼします。たとえば、私が何かおいしい物を味わうと、私の全存在がその喜びに与るのです。つまり、味覚を通して、私の霊さえも、その喜びに与るということです。

他の無数の感覚

しぐさ、動き、高さ、広さ、暖かさ、気遣い、関心、友情、存在、恐れ、悲しみ、喜び、平安、愛、幸福、慰め、満足、繊細さ、怒り、憎しみ、嫉妬、羨望、欲望、貪欲、安らぎ、気高さの感情等々に気づかせてくれる私たちの体のさまざまな機能は、さまざまな感覚の体験です。これらの体験は、人間生活の種々の側面を深めることを助けてくれます。或る体験は徐々に私たちの心をかき乱し、分裂させますが、他の体験は私たちの人格を作り上げます。これらの感覚体験はすべて、私たちの祈りににおいて重要な役割を果たしています。祈りとは、私たちの全存在が統合され、神の存在へと高められること以外の何ものでもありません。したがって、私たちの体で経験されるあらゆる種類の感覚機能は、魂や神との関係に直接かかわっているのです。どのような感情であれ感覚であれ、それが神へと向けられているならば、適正な達成感覚や神の意志への譲渡を含んでいるのです。

(続く)

くのり
九里 彰訳

ヘンリ・ナーウェンの

『旅路の糧』

(103)



靈的なもてなしとして聴くこと

聴くことは、とてもむずかしいことです。なぜならそれは、私たちがもはや演説や議論や声明や宣言などによって自分の存在を証しする必要がないほど、内的に安定していることを要求しているからです。真に聴く者は、もはや自分の存在を知らせる必要がないのです。彼は自由に他者を受け取り、迎え入れ、受容することができるのです。

聴くことは、自分の話すチャンスを待ちながら、他者に話をさせるといったことにつけるものではありません。聴くことは、相手に十全に注意を払うことであり、その人をまさに自分の存在の内へと迎え入れることだからです。聴くことの美しさは、聴かれている人が受け入れられていると感じ始め、自分の言葉をより真剣に受けとめ、ほんとうの自分を発見し始めるということです。聴くことは、靈的なもてなしの一つの姿であって、それを通して、あなたが見知らぬ人の友となるように、その人が内的自己をより完全に知り、あなたと共に沈黙の中へ入るようにと招くのです。

(0311)

私たちの内でイエスの霊が聴いている

靈的生活において聴くことは、他者が自分自身を見出すのを助けるという心理学的テクニック以上のものです。靈的生活において聴く者とは、話したいのだがそれを抑えつけられているエゴではなく、私たちの内におられる神の霊だからです。私たちが霊の内に洗礼を受けた時、すなわち私たちの内で息吹く神の息としてイエスの霊を受け取った時、その霊は私たちの内に、他者を受け入れ、他者の言葉に耳傾ける聖なる場所を創造するのです。イエスの霊は私たちの内で祈り、苦しみと痛みをもって私たちのところに来るすべての人の言うことを、私たちの内で聴いているのです。私たちの内で聴いている神の霊の力に思い切ってとことん信頼するならば、私たちはまことのいやしが成就するのを目の当たりにすることでしょう。

(0312)

年間第27主日

「義人は信仰によって生きる」 (ルカ17:5-10)

ある小さな女の子が、お父さんを訪ねてきた友人に、兄さんたちが鳥を捕まえようと罾を仕掛けたと話しました。するとお父さんは女の子に「それであなたはどうしたの？」と聞きました。「わたしは鳥が罾にかからないようにお祈りしたの。」と答えました。「ほかには？」「ええ、わたしは神様が鳥たちを罾から守ってくださるようにお祈りしたの。」「ほかには？」「うん、それからわたしは行って罾を蹴飛ばしてばらばらにしてしまいました。」

今日の福音の中で、信仰を増してくださいと願う弟子たちに、イエスはたとえ話と誇張した質問で教えておられます。そこでイエスが徹底的に教え込もうとされたメッセージは、重要なのは信仰の量ではなく、私たちの行いの基となる信仰の質であるということです。

召使が主人に給仕することを義務であると考えたように、イエスは弟子たち（全てのキリスト者）に、この地上に神の国を築いて行くために何の要求も不平も言わずに信仰を生きるように命じておられます。イエスは私たちが快く積極的に何の報酬も期待せず主が命じられたことを実行するようにと頼んでおられます。私たち人間はしばしば人生の困難に会ったときに一生懸命祈るものです。けれどももっと大切なことは他人の善のため、また神の栄光のために働く機会が与えられるように祈ることです。信仰は一つ一つの教義に対するこだわりではありません。信仰は主への深い信頼です。信仰は私たちの心が神のご意志（み旨）に開かれ、これに従って生きる努力を要求します。神のご意思（み旨）を生きることは、私たちがイエスの本物の弟子にしましょう。主の昇天に於ける聖パウロの信仰は、この地上に神の国を築いてゆくための聖パウロの活動に示されています。

ピーター・フレッチャーは書きました。“信仰はあなたや私が山々をも動かすことの出来る力である。もし私たちが簡単な二輪の手押し車を押すにも謙虚な思いであるならば。” 私たちの信仰は他人には不可能に見えることを可能にすることが出来ます。もし私たちのわずかな信仰が一人の貧しい少女の教育を、一人の気の毒な少女の結婚を、一人の不運な失業者の就職を助けるものとなるならば、彼らにとってそれは奇跡となるでしょう。キリスト教信仰に基づいた思いやりの心は不可能なことを可能にします。これこそイエスの次のみことばが意味することでしょう。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても言うことを聞くであろう。」(ルカ17:6)

(Sr. Paulina)

「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」(ルカ 17, 13)。

「イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた」、イエスは、受難、十字架に向けての道の途中、サマリアとガリラヤ、サマリア人とユダヤ人との間を、憎悪と猜疑心で対立する二つの地方、民族の間を通られた。このイエスを、ライ病を患っている十人の人たちが、その中の一人はサマリア人だったのですが、一緒になって出迎えたのです。健全な人々からは阻害され、同病相哀れみ、生きてゆくために、民族間の根深い憎悪を超越して一つの共同体を、病気が作らせていたのでしょうか。皮肉なことなのです。順調に繁栄しているときには乗り越えられない壁も、協力し合わなければ生きられない逆境のときには気にもならないものなのでしょうか。いずれにせよ、彼らは、離れたところから、一緒になって声を張り上げて叫んでいます。「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」。

「先生」、それは、文字どおり「先頭に立って居る人」です。先頭に立って道なき道を進む方、その後に道ができ、多くの人たちも歩けるようになる、まさに、道のないところに道を切り開きつつ先に立って歩む人です。イエスが先頭に立って進まれる道とは、それまで人間の誰も通れるとは想像もしなかったところに、イエスが進んでゆかれるから道ができる、十字架を過ぎ越して復活に至る道ではありませんか。それは、罪が造り出した憎悪と敵対、分裂、分断の極致、死を、十字架の上で愛と和解、生命の頂点に変える道です。この道の途上での十人の病人の癒しには、肉体の病の癒しを超える、心の病、罪に傷つけられ、互いに理解し合い、愛と理解の共同体を建設することに無能とされていた心の癒しが垣間見えます。自分の心に突感している敵意と対立の魅惑を超えて、このイエスに信じ、信頼し、自分を委ね従ってゆく、ここに信仰する者の決断があります。この心も、イエスの無償の恵みによるのです。「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものをひとつにし、後自分の肉において敵意と言う隔ての壁を取り壊し、…十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、…敵意を滅ぼされました」(1コリ 2, 14, 16-17)。

民族紛争、文化、宗教の衝突、日々のニュースの中で、人間の現実投げやりになるのではなく、先立つ方、イエスの憐れみに罪の傷を癒され、新しい連帯を創造する力を回復させていただきたいものです。 ルカ 渡辺幹夫

年間第29主日（C）

「弟子たちは、気を落とさずに絶えず祈らなければならない」
（ルカ18：1～8）

本日の福音のたとえ話を通して、イエスは弟子たちに絶え間なく祈るようにそして決して気を落としてはならないと教えておられます。「神は私たちの祈りにいつも答えてくださっているのでしょうか？」とか、「どのようにして絶え間なく祈るのでしょうか？」など私たちは質問をしがちです。人生の明らかな矛盾や、私たちが心から祈ってもほとんど全部答えがないことは、私たちが絶え間なく祈ろうとする気持ちを失わせます。もし私たちが本当に祈りの力を信じていて神に信頼を寄せているならば、決して祈りをやめることはありません。

このたとえ話には、二人の性格の異なる登場人物が出てきます。裁判官は裁判をすのを好まず、他人の必要に無関心です。一方、やもめは裁判官を絶え間なくうるさく困らせ自分の権利を確保しようとします。彼女は自分のやり方に執着し、遂に裁判官は彼女を追い払うためにに裁判をおこないました。このメッセージは、私たちの意志に合わせて私たちが神のご意志を曲げることができるということの意味しているではありません。うるさく言って神を服従させるということではありません。このたとえ話は、何故神は私たちの全ての祈りに答えてくださらないのかを説明するものではありません。このたとえ話は、私たちが苦しみの叫びや、嘆願、祈りをもって、度々神に近づくことができること、また神はあわれみ深く信頼できる父ですから私たちの願いを聞きとどけてくださることを思い出させるためのものです。

忍耐がいちばん必要とされる私たちの人生の場で――家族関係や、信仰、自負心、仕事、祈りなどで――忍耐することに確固とした委託の気持ちを今すぐ持ちましょう。

宣教者であるために大陸を横断する必要はありません。私たちは自分が今いる場での祈りや、宣教の仕事を経済的に支援することや、私たちの苦しみや犠牲を十字架の道においてイエスに合わせることや、宣教の成功のために私たちの日常の義務を捧げることなどによって宣教者になることができます。燃えることで火が存在するように、教会は積極的な愛深い配慮や奉仕を通して、宣教によって存在しなければなりません。

（Sr. Paulina）

「言うておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない」(18, 14)。

福音は、「一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった」と始まります。初めてこのたとえ話に接したとしても、聖書をよく読んでいると自負している人は、これを聞いただけで、結末を予測できてしまっていることでしょう。ファリサイ派の人と徴税人が出てくれば、必ず、軍配は徴税人の方に上がることになる。確かに、イエスは、ファリサイ派には批判的ですが、徴税人には優しく肯定的に接しています。しかし、イエスの日常の暮らし方は、どちらに近かったのでしょうか。神の掟を守り、よい慣習に従っておられた、この点ではファリサイ派の人たちに似ており、神の掟に反している徴税人の生活のようなものではなかったことは確実です。ファリサイ派も、ある時点までは、イエスを自分たちの仲間と思っていたほどなのです。しかし、イエスがファリサイ派の人の側にではなく、徴税人の側につくことは、疑いの余地はないほどです。何が、イエスをこのような交錯した行動に駆り立てたのでしょうか。

実に、このたとえ話は、「自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々」に対して語られたものです。正しい生活を送ること、また、そのためにある種の努力、修行をすること、例えば、断食や献金を実践し、奪い取る者、姦通を犯す者とならないように暮らすことは、神の御旨に添った生活であり、人間の努力目標です。しかし、このように生きられる、このような努力ができる、それは、わたしたちの功績なのでしょうか。あるいは、わたしたちのはからいを超えて、このような可能性が与えられているからなのでしょうか。一つ確実なことは、存在も、可能性も、すべては、神の恵みから無償でわたしたちに与えられることです。これは、わたしたちが気付いていないとしても、厳然たる事実なのです。そして、神は、わたしたちが良い業を実行して、隣人を見下すためではなく、隣人に奉仕し、隣人と共に神を賛美するものであるようにとの計画で、わたしたちにすべての良いものを与えてくださったのです。イエスは、この神の思いの根底に答える方、義に生きる方なのです。この御父の愛から切り離され、わたしの自己中心主義に汚染されるなら、すべての良いものも不義なものに変えてしまっている、ここにわたしたちの罪深さがあらわにされてくるのです。 ルカ 渡辺幹夫

十字架の聖ヨハネ こぼれ話(7)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

かえる 蛙 (3)

そして Sr. カタリーナを見たり、その足音を聞くやいなや蛙やおたまじゃくしが身を隠してしまうことを納得してからは、池のそばを通る時はいつでも、彼らがどのように隠れるかを見るため、わざと大きな音を立てました。こうして彼女も神の中に隠れる義務があることをよりよく思い出したのです。

非常に単純で、非常に有益かつ必要な義務を実行することによって、カタリーナは、共同体がよりよいものとなってゆくために貢献しました。庭で、蛙の教え——これを十字架の聖ヨハネ神父はとてもよく説明してくれたのです——を学び、瞑想したのです。台所では、母であり師であるイエスの聖テレサに教わったお鍋の教えが生きていました。聖女は書き残しています。「だからさあ娘たちよ、悲しんではいけません。従順によって外的な仕事にたずさわらなければならない時でも、台所であれば、私たちが内的にも外的にも助けようと、お鍋の間に主がおられると考えなさい」(『創立史』5・8)。

この話は、靈魂の中心、最深奥に神がおられるという十字架の聖ヨハネの著作の内容を思い起こさせます。たとえば『炎』の第一の歌の第三節ではこう言っています。

わたしの魂の最も奥深い中心で

聖人がこの節を解説する時、純粹な教説は別にするとして、身を隠し、池の底に潜む蛙のたとえは使われず、中心に絶えず向かう石や火のたとえ(「その領域の中心」『炎』1, 9-14)が使われています。しかし教えの内容自体は常に同じです。すなわち、次のことを絶えず注意しながら、神の中へと集中し、潜心し、身を隠さなければならないのです。「愛とは、靈魂の一つの傾きであり、神へと向かうために持っている力であり、能力である。なぜなら愛によって、靈魂は神と結ばれ、愛の程度が高くなればなるほど、靈魂は神の中へますます深く入り、神に集中するからである」(同上1, 13)。

(続)

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

18. 福者十字架上のイエスのマリア (1846-1878) — その3

マリyam・バウアルディは1846年ガリレアのアベリンに生まれた。彼女の一家は、レバノン人でギリシャ・メルキ派のカトリック教徒であった。マリyamは幼い頃から、苦行と謙遜に心をひかれ、聖母マリアに対する深い信心を持っていた。彼女の生涯は、聖体に対する深い渴望に特徴づけられる。その望みのため、彼女は許可を得る前に初聖体を受けてしまい、その瞬間、彼女はイエスがこの上なく美しい幼子の姿でご自分自身を彼女にお与えになるのを見た。13歳のとき、叔父の一人と婚約させられたが、結婚式の前夜、心の中で「すべては過ぎ去る！ もしあなたが、自分の心を私に与えることを望むなら、わたしはいつもあなたとともにとどまるであろう」という声を聞いた。彼女はその声に応えて、貞潔を守る意思を示そうとして長いお下げ髪を切り落とし、そのため奴隷扱いされるようになった。ある日、彼女は一家の友人であるイスラム教徒を介して、弟に手紙を送る決意をした。その人物は、彼女がイスラム教徒に改宗することを要求し、彼女が拒むと、三日月鎌で彼女ののどを深く切りつけ、血の海の中に彼女を取り残したまま去ってしまったが、聖母マリアが現れて看護してくださり、そのおかげで彼女は健康を回復したのであった。

1870年、ポーのカルメル会に入会する。その修道生活全体に超自然的恵みが目立っている。1873年から1874年にかけて、8度、恍惚状態で空中に引き上げられた。聖痕も受け、それは強く甘美な芳香を放っていた。心臓は貫かれ、ご出現や、実際に実現した預言を度々受けている。マリyamは神秘的知識を有し、同時に二箇所 にいたことさえあった。また詩の才能にも恵まれ、それは彼女が学校教育を受けていないことを考えれば驚くべきものである。福者マリyamはインドのマンガロールにも赴いたが、その後ポーに戻る。この「小さなアラブ人」はベトレヘムの修道院を創立し、1878年に亡くなった。



福者十字架上のイエスのマリyam

— 祈り —

私の霊は魅了されて、あなたのすべてのみ業を観想しています。
おお、誰がこれほど偉大なあなたに話しかけることができるでしょうか！
おお、全能なるお方、それは魅惑された私の靈魂です！
無に過ぎない、ひとひらの塵でしかない者があなたに申しあげるので、
私のところに来てくださいと。
全能なるお方が気付いてくださると、誰が言えるでしょうか！
ただ一目で！ 私をご覧になるあなた、私のところに来てください。
あなたのみが私の神、私のすべてなのです。
私はあなたを見ます、至高の善なるお方よ、あなたのまなざしは母のようです。
早く来てください、おお正義の太陽よ、昇ってください！
私の靈魂は魅了され、待っている間に弱ってしまいます。
早く来てください！
私の靈魂よ、鳩の翼で、神に向かって飛んでいきなさい、
神が私のすべてなのです。
あなたのまなざしは私を慰め、私の靈魂は喜びに震えます。
無そのもの、塵に過ぎない者が震えるのです、
これほど偉大な神の現存の中で。
神は、ご自分の野原を訪れてくださいました、
飛んで行ってしまいなさい、おお私の靈魂よ！
私の靈魂は、雲の中にあなたを見ます。
もう、この地上にとどまっていることはできません。
あなたが一目ご覧になるだけで、無に過ぎない者をこの世から引き寄せるのに
十分です。
神はその御力において輝いておられます。
すべてのものが神を賛美しますように、神を賛美しますように！
私の靈魂は愚かで、もうこれ以上耐えられません。
私の靈魂をお取りになってください！
神を持つ者は、すべてのものを所有しているのです。

ある示現の中で

聖母マリアはイエスがカルメル会の修道服を身につけた3歳の女の子を抱いているの
をご覧になりました。聖母は主に言われました。「この小さな子は幸運です。あなたは
この子をそんなにも愛しているのですから！」 イエスはお答えになりました。「そう
です、私は彼女を愛しています。私がどのように彼女を自分の腕に抱いているかをご覧
なさい。でも彼女はそれを知らないのです。」——彼女がそれを知らないとは！ ああ、
もし私がそのようであったなら、それを感じ、幸福であるとお約束します！ おお小さ
き者よ、これほど罪深い私のために祈ってください。あなたは清らかで、私は汚らわ
しい者なのです。(この小さな子どもは私を見ませんでした。彼女はイエスだけを見つめ、
イエスもずっと彼女だけをご覧になっていました。)

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(崇奉カルメル会訳・編)

スペイン紀行（2007年）No.3

（バトゥエカス）

スペインの首都マドリードの西に学生の町サラマンカという町があるが、このサラマンカの南100キロメートルの位置に小さな山脈が走っている。その山脈の谷間に、バトゥエカスという場所があり、ここには日本にはない男子跣足カルメル修道会の特別の修道院が建っている。

別名、（砂漠の修道院）といわれる修道院である。（砂漠）といわれるが、ここには砂漠があるわけではなく、隠遁生活をする修道士たちの修道院を指して、（砂漠）といわれているのである。実際、この場所は豊かな山の森林に囲まれていて、小川が流れており、私たちのイメージをする砂漠とは程遠い場所である。山の中にも隠遁所が点在している。しかし、隠遁生活は厳格に行われている。

ここの修道院の起源は、アヴィラの聖テレジア（1983年帰天）、十字架の聖ヨハネ（1991年帰天）の時代のすぐ後に創立されている（1599年6月5日創立）。その創立の精神は、アヴィラの聖テレジアの「師父たちの生きた原始会則に立ち戻る」というものであった（創立史14・5参照）。そのため、カルメル修道会ファミリーの起源であるパレスチナのカルメル山の隠遁生活に目を注ぐ生活を始めたのであった。実際、この修道院の造りは、山間の谷間の小川の近くにあり、修道院の聖堂の前には豊かな泉が湧き出ている、飲むことができる。パレスチナの最初の修道院も、エリヤの泉の近くに造られているので、カルメル修道会の砂漠の修道院は泉、またはテレジアが好んで使っていた井戸があるのが特徴のようだ。しかし、テレジアは、これを人間の内部から湧き出る生命の泉に私たちを導くのだが、また、聖堂を修道院の中心に作り、各修道士たちが隠遁する隠遁所がこの聖堂を囲んでいる構造である。常に生活の中心は、生命の泉であるイエスキリストだからである。

歴史的には、フランスの侵入や男子修道院の廃止などで、一度は手放しているが、市民戦争（1936～1939年）の時、女子カルメル会のマラビリャス院長によって買い戻され、後に男子カルメル会に再び戻るといふ運命をたどっている。



跣足カルメル修道会の多くの修道院は、都会や町の周り近くに造られ、使徒的観想生活をするが、一方、砂漠の修道院のように、隠遁的観想の要素も持ち合わせている修道会であることを、思い起こさせる。

（Fr. 松田浩一 OCD）

草取り

ある日ボンヤリ庭の景色を眺めていたら、梅の木が目に入りました。木は大きくはないのですが、毎年実がなり適量の梅干になってくれています。“よく忠実になってくれてありがとうね”と思っていると、その根元に大きな草が生えているのに気付きました。この暑さになんとけな気なことよ、と思って見たのですが、確かに草なのです。まるで“わが世の夏”と言わんばかりに大きいのがニョキニョキと育っています。そこで、食後にそこまで歩いていってみました。そうしたらその大きな草は勿論のこと、木々の植え込みの間や芝生の中に、大小取り混ぜ、種類の違う草がそれはそれはピッシリと喋っている程生えていました。そこで、その日は草取りデーにすることにして、ズボンを穿き、小さいスコップを持って地面にしゃがみ込みました。大小のアリが大勢何だか忙しそうに歩いているし、バツミみたいに飛ぶ小さな虫とか、てんとう虫のようなものがしっかり木についていたり。私の生活は、毎日のように電車やバスに乗り、忙しそうに行き交う人間の中を縫って歩いているので、こんなに小さくて広い世界を久しく眺めることはありませんでした。早速、私はゴム手袋をはめ、小さな移植ゴテをもって草取りの準備をしました。ドーンと腰を落としてしゃがみ込み、作業にかかったのですが、遠目で見るのと違って近寄ってみると、これまた大小取り混ぜて異種の草々が一ぱいはびこっています。“よし、片っ端から平らげていこう”と思ったのですが、いざスコップを土に入れて根元から根絶しようとしてもそう簡単ではありません。小さい草の群れもあれば、“ウンショ”と力を振り絞ってスコップを入れても全然動じない草もある。つまり根元が頑丈で、すぐにギブアップしてくれないのです。“なんてあなたは意地っ張りなの。もっと素直に降参すればいいじゃない！！”と言いながら、スコップをトントン叩きながら土に入れ、何回か繰り返した途端に抜けて尻餅をついてしまうとか……“お前も随分強情だね。でも今は全面的に降参だろ。”私は自分の忍耐の結果の快挙と、取れた力のない根っこを見て、満足感に浸りました。その時、人間の心中もこんなものなんだろうな と思ったのです。私が罪の赦しを受ける時、この秘跡の中で、神さまに向かって心を開く というのはこんなことなのでしょう と。自分で意地を張っていることには全く気がつかない。糾明は真面目にしている、自分の心中にはびこっている一番強い根っこ（自我、自己中）になかなか気がつかない。何回も告白の秘跡に与っているのに、また同様の罪を重ねてしまうのは、この草の根のように、自分中心の“自我”を取り去ることが出来ないからだと思います。だから糾明というスコップをいれても、力不足、掘り足りなさで止めてしまうから、いつまで経っても引っかかっている自我に気付きません。だから神さまは、人間生活の中で、他人の手を通して“コト”を起こし、自分にとっては大きな不都合、不運の波が襲いかかるような状態の時に、悟らせて下さるのだと思いました。自分の手加減だけではなかなか根っこは取れません。“コト”とは、人間を通して天から降ってくる試練であり、一時しのぎではなく、この草のように大きな視点から受け止めない限り、根っこはそう簡単に抜けないのだなあ と思いました。お告げのフランシスコ姉妹会 S r. 熊田 照子

エディット・シュタインと田中輝義神父（1）

内観瞑想センター 藤原 直達（大阪教区司祭）

070707というゼロとセブンの並んだ2007年7月7日、七夕の夜、カルメル会士田中輝義神父は、74歳10ヶ月の生涯を終えた。長年、西宮トラピスチヌ修道院のチャプレンとして隠棲し、思索瞑想の隠れた生活を好んでいた。知る人も少ないので、ここに、一人の日本人カルメル会士を紹介しよう。

1 現象学とトマス哲学

エディット・シュタインこと十字架のテレサ・ベネディクタ聖女は、若い頃フッサールの弟子として現象学を学ぶ。エディット・シュタインの著作に感化されてカルメル会入りした田中は、当然フッサールの手法から影響を受け、彼の思索の根底に現象学的思惟があつたであろう。

彼は上智大学で主にドイツ哲学を研究していて、当然、フッサールやその弟子であるハイデッガー、マックス・シェラーなどを読んでいた。他方、病氣静養中には、東洋哲学・唯識思想を深く思索瞑想しており、自らのものを考える際の主軸としていたが、やがて現象学創始者フッサールの愛した第一の助手であつたエディットと原語本で出会う。

田中の中で、純粹意識に迫ろうとするフッサール流の哲学姿勢と、自らの遺伝子の中に刻まれている東洋的思惟との咀嚼、西欧と東洋の思惟とを内的統合する知的作業が、彼のカルメル会士としての内面的な使命であつた。彼は、それらの上にアミタ信仰とキリストの比類なき献愛を見ていた。

さて、フッサールの元を去った聖女エディットは、その後ドミニコ会系の学院で教鞭を取りながら、フッサール現象学を携えてトマス哲学へと進む。その成果は、トマスの「真理論」のドイツ語訳を行うことで示した。現象学は、真理探究にあたり、事物そのものへ帰れという標語のもとに、見えない彼方への問い掛けを中断する。なぜなら主観的知性は曇つためがねのレンズのように様々な偏見や歪曲に汚染されているものであるが、「事物をありのままに見る」純粹客観になろうとすることをもつぱらの

哲学者の勤めと心得た。そのために、内面降下して意識の構造を正しく知り、偏見の網をくぐり純粹意識にいたろうとする。そういう哲学的関心において「神」を排除してかかる。しかし、聖女は先生のフッサールと違い、神を信じる人々という実際に生活する人々の「現象」のまえに、膝をかがめる。聖女の現象学的関心では、師フッサールよりも他者や外界との「かかわり」をより重要とする立場であった。そこに田中の言う「アーメン・合掌心」がエディットの心内に動いていたのであろう。彼女の意識とその意識に働きかけたアチラからの恩恵としての智慧に目覚めた。彼女はカトリックという「現象」に触れることにより、自らが知らぬ間に合理主義的哲学に陥っていたことに気づく。また決していまだ純粹意識にいたっていない自己の意識を認めて、人間の真理探究の限界性を認め、徐々に彼女は超越的領域へと知性を開いていった。究極的な真理をもとめる彼女は、意識の表層また深層で働く上から内からの息吹に導かれつつ、トマスに導かれ自分の哲学の統合がなされていった。そうして、エディットは聖テレサの道と出会う。思索から瞑想へと傾きはじめ、彼女自身の信仰の実りへといたる。

こうしたエディットの「心の内なる旅」に、信仰者・田中も共感する点があったのであろう。仏教とキリスト教の深遠な対話の道中に、人々は唯識思想というとても深く深い密林に迷う。しかし、唯識の真如という深淵の暗闇から「いのち・ひかり」がコチラ側へ噴出してくるもの（いのちの主からの噴射動力）を田中はみのがさなかった。そこに田中の貴重な論点があった。

仏教とキリスト教の対話という人類史上、もっとも困難な精神的営みの前に、現象学者エディットは、神の子・イエス・キリストの光へと舵をむけさせてくれるだろう。対話者たちは、唯識論の密林深くに畏れつつ敬意をしめしつつ自らも内面降下し、フッサールの現象学やそれを越えたエディットの道筋により様々な呪縛から身軽になり真理の前に謙虚になり、そしてさらにそれらを再統合しようとする田中が瞑想した一つの視点。仏教との対話を目指すには、こういう思索・瞑想の旅になるのだろうか。

〈続く〉

「ずっとここにいるわけにはいかないけれど
でも今はいいんだ」

石原淳子

池澤夏樹の小説を読んでいて、沢山のページ沢山の文字の中から、表記の言葉が、まるでいのちを放つ生きもののように、突如私の内へと飛び込んできて、そのまま魂の深奥に住みつきました。

頭の上からドカーンと心の底からジワーツと同時に襲われ、身動きが出来なくなるかのような、目眩く遭遇でした。

小説の中では、心閉ざす少年が、海の真ん中で鳥と海を見ながら心安めてくちにする呟きのような台詞で、それ自体に深く意味をもたせるものではないのですが、しかし、何という深遠な含蓄に富む言葉かと、僥倖の恵みによるこび感動します。

ずっとここにいるわけにはいかないけれど
(ずっとここにいたいという思いはあるの。でもだめなの。いつかここを去っていくの。)
でも今はいいんだ
(今はいいのよ。今だけはここにいる。ここにこうしているの。)

どう云ったらいいでしょうか。深い悲しさと力強い充足がしっかりと両立を示している。静かな諦観ともいえるけれど、希望の安堵。「今」は束の間かもしれないけれど、或る明るさ(開け)に繋がっているかのような遙さを感じます。

思うのです。恐らく誰もが生きゆく人生にあって、いつかどこかで必ずこの言葉の中に身を置いたに違いないと。

どんな時に?
恋人同士の限られた2時間の逢瀬・・・今だけはこの時間は二人だけの世界。
命を賭した登山、辿り着いた頂上を渡る風。あり得ないこの眺望我が胸に。

もうすぐ彼の降りる駅、あと12分。でも今はいいんだ。あと12分。

物語に陶醉する。もう少し後に延ばす夕食の支度。もう少しこの別世界に。

秋空の青の下、コスモスの群生。カメラで覗く異次元の美の空間。

牢獄の囚われ人。窓の外に見る故郷の雲 想う魚釣りの川辺の友。

さようならの空港。ねえお茶でも飲もうか。

そして又、飛び立とうとする小さな草花の種子の声。

また、長く長くいた土の中から、やっと出てきた夏の蟬たちの賑わいの声。

「ずっとここにいるわけにはいかないけれど でも今はいいんだ」

今年、古希を迎えた私の魂の声も聞こえます。そう・・・ずっとここ（この世）にいるわけにはいかないけれど、でも今はここ（この世）こそがすべて。ここだけに生を紡ぐ。ここだけにいのちを刻む。いつの日かここ（この世）を離れること、深くお名残惜しいけれど、でも、私の魂はきっと知っている気がします。何か次を予期し、次へと繋がっていく「開け」を。

深く確かに聞くであろうことば・・・「さぁ 向こう岸へ渡ろう！」
その時は、私はイエズスにおんぶして貰う。

* ずっとここにいるわけにはいかないけれど でも今はいいんだ

池澤夏樹 短編集「きみのためのバラ」 165ページ

やくそく

毎年、ロザリオの月が来ると、思い出さずにはいられない一人の友達がいます。

Wさんは、孤児として施設で育ちました。母親のぬくもりを知らずに育った彼女だったからでしょうか、聖母様への強い信心を持っていました。

ある年の被昇天の大祝日、教会へ行ったら、彼女はわたしにロザリオをプレゼントしてくれました。「このロザリオで、わたしのために祈ってね」と彼女は言いました。「ありがとう！きっとお祈りするね」とわたしは言いました。

そのような会話をしてもなく、彼女は病に倒れ、それがそのまま死の床になってしまいました。病院で力なく横たわっている彼女を見て涙を流しているわたしに、彼女は「わたしのために祈って！」と言いました。そうだ、祈るって約束したのだとその時改めて思いました。あの祈りの約束が、今や重い意味を持ってしまったことを痛感しました。そこで、毎日のように病院へ行き、もう殆ど話さなくなった友の傍らで手を握り、彼女の耳元で、彼女の贈ってくれたロザリオを唱える事にしました。

彼女は、もう何も口にはいけなかったけれど、わたしが彼女だったら御聖体を拝領したいと思う筈だと思い、看護師を説得してなんとか許可を貰いました。神学生が病院まで持ってきてくれた御聖体のかけらを彼女の口に入れ、水で溶かしながら少しずつ飲み込めるようにしました。ずっと寝ているだけだった彼女なのに、聖体拝領の前に祈り、拝領後に聖歌を歌った時には、私達と一緒に声を出して祈り歌いました。恵みの時でした。

もしあの夏の日、彼女と祈りの約束をしていなかったら、わたしはとてもここまで出来なかったと思います。誰かのために祈ることとは、その人の十字架の苦しみと喜びの道を共に歩む事なのだと思えます。

聖母様が大好きな Wさんは、聖母被昇天の日倒れ、ロザリオ月に天国へと旅立ちました。

丸山知佳子



愚かさに出でし言の葉この夕べ重くしをれて心
にかへる

足裏に他人ひとには秘ひむるさびしらの感情線のごと
き線あり

まことなる愛にはいつも及ばざり視野高高と秋
雲流る

故クララ、密本延枝さまの歌集「オルゴール」より



いのちの言葉 9月

正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めなさい。

(テモテ 6・11)

今月のみ言葉で語られるこうしたすべての徳を、日々の生活の中で生きるには、どうすればいいのでしょうか。

徳を一つ一つ身につけていくのは、難しいことかもしれませんが、しかし、愛を徹底的に実践しながら、今の瞬間を生きることができましょう。神のみ旨にとどまって今の瞬間を生きる人の内には神がいてくださり、その人の中には愛があるからです。

いろいろな状況の中で今の瞬間を生きる人は、忍耐強く、根気があり、柔和で、すべてにおいて貧しく、清い人です。また深い憐れみを持つ人です。愛の最も純粹で崇高な表われは、憐れみだからです。心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、本当に神を愛する人です。また、光で照らされた魂をもって、聖霊に導かれて生きます。人を裁いたり、悪く思ったりせず、自分と同じように隣人を愛する人です。福音が求める「右の頬を打たれるなら、左の頬も向け」、「一ミリオン行くよう強いられるなら、一緒に二ミリオン行く」¹といった、人間の理解をはるかに超えるようなことも、今の瞬間を生きる人はそれに應える力を持っています。

正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めなさい。

この勧告はテモテに向けられた言葉です。彼はパウロの忠実な協力者、旅の道連れ、友であり、パウロが息子同様に信

頼を寄せていた人物でした。パウロは、高慢やねたみ、争いや金銭欲の悪を指摘した後、テモテに向かって「神の人よ、あなたはこれらのことを避けなさい」と言い²、人としてキリスト者として、徳を輝かせる生活を目指すよう招いています。

悪を「避け」、善を「目指す」というパウロの招きは、洗礼の約束の言葉に通じるものがあります。聖霊は、パウロの勧めを私たちが実践できるよう力を与え、私たちを全面的に変えてくださいます。

正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めなさい。

1944年、北イタリアのトレントで、私たち数人の少女が始めた生活から、フォコラーレは始まりました。当時の体験は、今月の「いのちの言葉」に出てくる愛、忍耐、柔和をどう生きられるかを示しています。

特に最初の頃、私たちにとっても、愛を徹底的に生きるのは決して易しいことではありませんでした。互いの関係にほこりがたまり、相手の欠点や足りない所に目がたって、競いてしまい、相互の愛が冷めてしまう時には、一致が弱くなるのがわかりました。

このような状況を何とかしようと思った私たちは、ある日一つの約束を交わし、「憐れみの約束」と名をつけました。

この約束は、毎朝フォコラーレや学校、

¹ マタイ 5・41 参照

² テモテ 6・11

職場などで隣人に出会うとき、相手の欠点をいっさい思い出さず、愛ですべてを覆い、まったく新しい目で相手を見る、というものです。すべての人をありのまま受け入れる赦しの心をもって、皆に接することでした。

私たちが一緒にしたこの強い決心は、すべてを赦し忘れてくださる憐れみ深い神に倣い、私たちが自分から先にいつも愛するのを助けてくれました。

キアラ・ルービック

(2007.9)

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

以前いた職場でのことです。小さな会社で社長の息子から「お前なんかもうやめろよ」という態度で扱われ、辞めてしまいたいと何度も思いました。そういう彼を愛せない自分も責めていました。ある日、ごミサのあと、大きな十字架のイエスを見つめていた時、突然「神様はあなたからお父さんと呼ばれると、嬉しいよ」と言われたように感じました。落ち込んでいた私は、「とんでもない、こんな私がお父さんと呼ぶなんて」と打ち消しました。私にとって神様は、「天にまします我らの父よ」であって、お父さんなんて考えたこともありませんでした。でも勇気を出して、神様を意識しながら「お父さん！」って呼んでみました。するととても嬉しくなりました。家に戻り、朝食の時、「主、願わくは我らを祝し、…」と祈る代わりに「お父さん、こんな私ですけど祝福してください。この朝食を祝福してください。」と言いましたら又とても嬉しくなり、思いつくままに次から次へと人の名をあげて、「～さんを祝福して下さい」と言いました。全部終わった時、会社のあの彼を思い出しました。あんなひどい人をどうして祝福できるだろうかと。すると途端に落ち着かなくなりました。それで思いっきり力を振りしぼって、「あの人を祝福してください」と言って会社に行き、いつものように怒鳴られました。でもその日は違いました。怒鳴られたり、ひどい態度をとられても、「もう神様はこの人を祝福しているのだから、これもすべて良いものに変ったのだ」と分かったからです。不機嫌な声を聞いて心はすこし痛みましたが、その声はまるで頭の上を風が吹いていくような感じでした。それから間もなく知人が新しい職場を知らせてきました。神様を信頼して飛び込んだ時、神様は愛でわたしを迎えてくれました。(東京K)

お知らせ

東京：共同体の集い

10月14日(日)

四ツ谷・調布・鷺沼・藤沢にて

連絡先フォコラーレ:

03-3707-4018/03-5370-6424

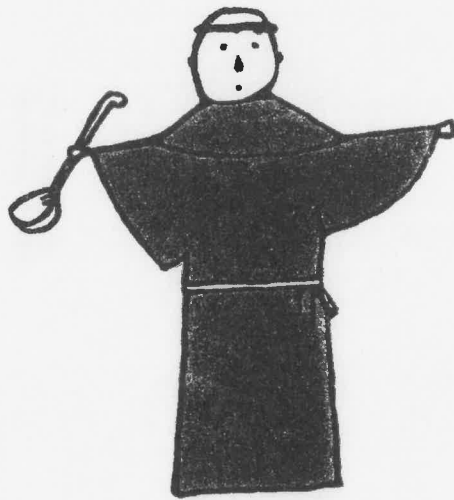
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>



S. Teresa. Chiesa di S. Giuseppe d'Avila.

カルメル会の企画案内



内案画金の会小々小々



上野毛靈性センター '07年10月～'08年3月

A 黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

12月15日～16日 九里彰師

08/ 2月23日～24日 九里彰師

一日聖書深読 (毎回土曜日午前10時～午後4時)

10月13日 九里彰師

11月17日 九里彰師

08/ 1月12日 九里彰師

3月15日 九里彰師

2. 奉獻生活者のための黙想会

12月26日(水) 夕食～08/1月4日(金) 朝 福田正範師

3. 木曜黙想会 一般黙想 (毎回木曜日10時～16時)

10月25日 あなたの信仰が、あなたを救った 福田正範師

12月20日 お言葉どおり、この身に成りますように 九里彰師

08/ 1月31日 主よ、助けてください 福田正範師

2月28日 見えない者は、見えるようになる 九里彰師

3月27日 あなた方に平和があるように 福田正範師

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎週金曜日10時～16時)

10月5日 リジューの聖テレジアが生きた「祈り」 九里彰師

11月2日 自分に死に、あなたに生きんことを 福田正範師

12月7日 三位一体のエリザベットの示す「天国」 九里彰師

08/ 2月8日 御復活のラウレンシオ 福田正範師

5. 青年黙想会 (男女) 九里彰師 神学生

11月23日(金) 15時受付～24日(土) 16時

6. 召命黙想会 (男女) 九里彰師
11月 9日 (金) 20時～11日 (日)・・・(9日は夕食を済ませてご参加ください)

7. 大祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

12月24日 (月)～25日 (火)《講話なし、夕食なし》

【聖週間を祈る】チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

08/ 3月20日 (木)～23日 (日)《講話なし、各食事つき》

8. 特別黙想会 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ) 夕食を済ませてご参加ください。

【私は神を見たい】・・・祈り

10月26日 (金) 20時 ～ 28日 (日) 15時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

B カルメル靈性研究クラス (九里 彰神父)

* 十字架の聖ヨハネ『愛の生ける炎』

★ 10月10日(10月3日から変更) 第三の歌 (1から18まで)

10月31日 第三の歌 (19から42まで)

11月14日 第三の歌 (43から62まで)

* アヴィラの聖テレジア『創立史』

10月17日 第17章～第19章

11月7日 第20章～第22章

11月28日 第23章～第25章

どちらも水曜日夜7:15～8:45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。

C 念祷の集い (九里 彰神父)

10月26日 「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」

11月30日 「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる。」

毎月一回金曜夜7:15分より。上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

7:15 聖歌 始めの祈り

み言葉 念祷 講話 念祷

8:40 終りの祈り 聖歌

D 東西靈性研究クラス (九里 彰神父)

カルメルの靈性を通して、広く諸宗教の靈性を学ぶクラスです。

* 毎月第二金曜日(午後7:15～8:45)信徒会館26号室。無料。

* 第5回 10月12日 『老子』上編第1章～第10章

講談社学術文庫(金谷治訳注)を使用します。

* 発表者: 九里

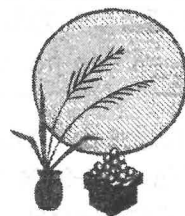
* 各回とも、参加者に順番でリポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。

* 問い合わせ: 加藤和彦 TEL (03) 3418-6816

E-mail tokyo@carmel-monastery.jp

* 第6回 11月16日 『老子』上編第11章～第20章

* 第7回 12月14日 『老子』上編第21章～第30章



C.Y.C.(カルメル・ユース・クラブ)

キリスト者青年の集い

アヴィラの聖テレジアと念祷

10月15日はアヴィラの聖テレジア(イエスの聖テレジア)の記念日(カルメル会では祭日)です。「念祷(心の祈り)」は聖女の生涯においてどのような意味を持っているのでしょうか。テレジアの祈りについて学び、どのように祈っていったらよいのか共に考えましょう。

日 時 : 10月28日(日) 13:30~16:30
 対 象 : 18歳以上 35歳までの 青年男女
 スタッフ : カルメル会士
 場 所 : 上野毛教会 信徒会館ホール
 東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分



プログラム

13:30~	受付開始
13:50~	始めの祈り
14:00~14:40	講話
14:40~15:00	念祷(その後、休憩)
15:10~16:00	分かち合い 終わりの祈り
16:00~16:30	茶話会
16:30	解散

その他

☆ 事前の申込みは不要ですので、お気軽にお越し下さい。お問い合わせに関しましては FAXまたはE-mailに、住所、氏名、年齢をお書きいただき、下記までお送り下さい。

☆ 年内のC.Y.C.の日程は、次の通りです。 11月25日(日) 12月23日(日)

※C.Y.C.のご案内は、カルメル霊性センターのホームページからご覧いただけます。
<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/> (各種黙想会・企画のご案内もごさいます。)

カルメル修道会 カルメル・ユース・クラブ (C.Y.C.) 係 (神学生: 古川)
 [Fax] 03-3704-1764 [E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp
 (〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-3704-2171)

特別黙想会

《わたしは神をみたい》

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ帰天40周年にあたって—

2007年10月26日（金曜日）午後8時—28日（日曜日）午後3時

祈りとは？ —わたしの愛と神の愛との出会い

神は愛です。神は愛によってわたしたちを創られ、
愛によってわたしたちをあがなわれました。
そして神は、わたしたちがご自身と親密に一致するように
造られました。神との一致を神ご自身が、
最も望んでおられるのです。……
わたしたちの愛と愛である神と出会う、
するとただちにそこには、愛に充ちた交流が成立します。
それが念禱なのです。

『わたしは神をみたい Je Veux Voir Dieu』

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ著より



人それぞれのあらゆる日々の煩わしさを越え、しばらく立ち止まってみませんか？
絶え間ない用事に巻き込まれ、どうしてもなく自分自身の深みで求めているもの
から切り離され、ときには闇がわたしの上に鉛のように重く覆いかぶさってくる。
そのようなことをすべて越えて、自分の深みにもどってみませんか？
愛を見つけ、それに生かされている人のように、無鉄砲な生活から帰った放蕩息子
のように、あるいは「イエスを一目見ようと探す」ザアカイのようにもどってみま
しょう。わたしたちの深奥、存在の深みで「愛」を再発見する、わたしたちが賜物
としていただいた存在の深奥で愛を再び見出すのです。

指導： 伊従 信子（NDV）

持参するもの： 聖書（新約）、筆記用具、パジャマ

その他通常の備品は備えてあります。

参加費用：¥12,000

*26日（当日）は夕食を済ませてから参加下さい。

158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355

Fax 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

'07年10月～'08年3月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

宇治聖テレジア修道院(黙想)

1. 聖書深読

一泊二日(午後5時～午後4時)

	11月17日(土)～18日(日)	渡辺幹夫神父
08/	1月12日(土)～13日(日)	渡辺幹夫神父
	3月8日(土)～9日(日)	新井延和神父

2. 水曜黙想(午前10時～午後4時)

	10月17日	アビラの聖テレジア	アロイジオ神父
	11月14日	日常の聖性	中川博道神父
	12月12日	十字架の聖ヨハネ	新井延和神父
08/	1月16日	新しくなる	渡辺幹夫神父
	2月20日	聖書の祈り	新井延和神父
	3月12日	主の受難	カルメロ神父

3. 四旬節黙想(午後5時～午後4時)

08/ 2月9日(土)～2月10日(日) カルメロ神父

4. 待降節黙想(午後5時～午後4時)

12月1日(土)～12月2日(日) 渡辺幹夫神父

5. 日曜黙想会(午前10時～午後4時)

10月7日 渡辺幹夫神父

6. 奉献生活者の黙想(午後5時～午前9時)

	10月20日(土)～10月29日(月)	渡辺幹夫神父
	12月27日(木)～1月5日(土)	カルメロ神父

7.青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月4日（日）・ カルメル宣教修道女会 中川博道神父

.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

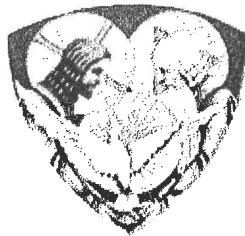
*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457



「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2007）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかたがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「秘跡を生きる」としました。このテーマの中で、秘跡の教義的な側面をベースにし、神との出会いの中で七つの秘跡をどのように受止め、生きることが出来るかを黙想の中で深めていく事ができるようにと願っています。

了 第1回	1月16日（火）	神の現存の体験	松田浩一神父	（上野毛修道院）
了 第2回	2月12日（月）*祝	洗礼・堅信の秘跡	中川博道神父	（宇治修道院）
了 第3回	3月21日（水）*祝	赦しの秘跡	新井延和神父	（宇治修道院）
了 第4回	4月17日（火）	聖体の秘跡	カルメロ神父	（宇治修道院）
了 第5回	5月15日（火）	結婚の秘跡	九里彰神父	（上野毛修道院）
了 第6回	6月19日（火）	叙階の秘跡	渡辺幹夫神父	（宇治修道院）
了 第7回	7月16日（月）*祝	カルメル山の聖母	新井延和神父	（宇治修道院）
了 第8回	9月11日（火）	幼いイエスの聖テレジアと秘跡	アダミニ神父	（日比野修道院）
第9回	10月16日（火）	アヴィラの聖テレジアと秘跡	中川博道神父	（宇治修道院）
第10回	11月23日（金）*祝	病者の塗油	ベルナルド神父	（宇治修道院）

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
(駐車場は利用できません。)

* 費用 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約20名

* プログラム

10:00～	祈り
10:40～	講話【1】
12:00～12:45	昼食
12:50～	赦しの秘跡または短い面接
13:30～	講話【2】
14:45～	ミサ
15:30～	茶話会
16:00～	終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へバガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター一日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市長春区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 3 京 都（毎回土曜日）

10月 6日 P.オヘル神父

11月 17日 奥村豊神父

12月 8日 新井延和神父

*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回 2,500円（昼食代を含む）

時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート
申し込み・問い合わせ（お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

4 名古屋聖書深読会

10月 6日（土） 日比野カトリック教会 中川博道神父

- * 毎回事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
- * 定員 21名 申し込みはFAXかハガキでお願いします。
- * コースは深読法を集中的に行う一日コースと全行程を沈黙のうちに黙想しながら1泊2日のコースがあります。
- * 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方ならどなたでもご参加ください。

申し込みは、下記の住所へ、ハガキかFAXで、氏名、住所、TELを記入の上開催の3日前までに必着のこと。キリスト者は所属教会名もご記入ください。

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 有光信子さんのグループ

① 通信・参加者は「素読表」（B5 あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

② ミニ深読（午後2時～4時）毎月第4木曜日（8月はお休み）宇治カルメル会教会

①②とも：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」No. 325 (2007年夏号)「今日の靈性」

- * 聖靈の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(6) …高橋正行
「あなたがたに平和があるように」
—ヨハネ福音書 20章 19～29節 …九里 彰
- * 祈り(14) …チプリアノ・ボンタッキョ
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (7) …フェデリコ・ルイス
愛で生きる(5) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(2) 一信徒の生き方を探る …伊従信子
カルメルの響り(9) ～ひとり海を渡ったおとめ～
OCD日本創立に向けた具体的な動きII …大瀬高司
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師(17)
—あなたの信仰を信じなさい …伊従信子
- * オウム真理教元信者の手記を読んで …谷口正子
愛の断章(4) …奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 326 (2007年秋号)「今日の靈性」

- * 聖靈の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(7) …高橋正行
- * 【靈的講話】存在の根底に立ち返る …中川 博道
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (8) …フェデリコ・ルイス
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(6) …九里 彰
愛で生きる(6) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(3) …伊従信子
カルメルの響り(10) 一結実 OCD女子修道院創立とその後 …大瀬高司
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師(18) …伊従信子
- * すべてを受け入れる …森 みさ
愛の断章(5) …奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356)

待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)

青年黙想会

キリストを待ち望む

—まことの救いを求めて—



日時：11月23日(金)16時～24日(土)16時

場所：聖テレジア修道院(黙想)
(東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分)

対象：高校生以上の青年男女(35歳まで)

定員：20名

指導：九里彰師・神学生

費用：一般 5,500円 学生 4,000円

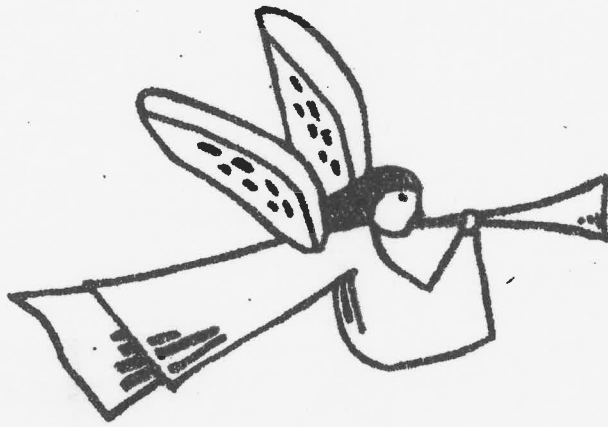
参加ご希望の方は、ハガキ・
FAX・E-mail のいずれかで
住所・氏名・年齢・電話番号を
ご記入の上 11/16(金)までに
下記宛お申込み下さい。(必着)

(お問い合わせ 及び お申し込み先)

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
TEL (03) 5706-7355 / FAX (03) 3704-1764 / E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

※黙想会等のご案内は、カルメル霊性センターのホームページでご覧いただけます。
<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/> (C.Y.C. カルメユースクラブのご案内もございます。)

諸所の企画案内



CWC 企画

心のいほり

リーゼンフーバー神父・キリスト教講座

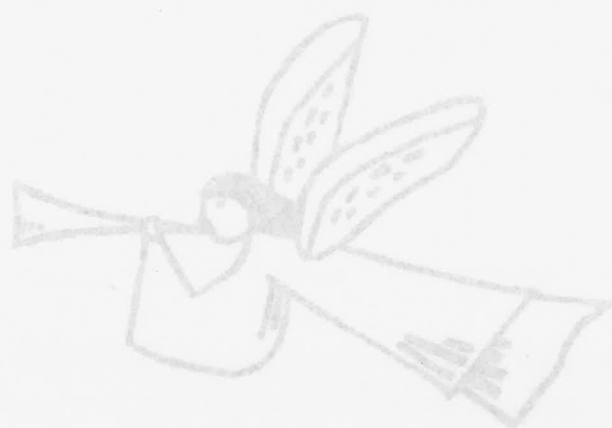
真命山靈性交流センター

コングレガシオン・ド・ノートルダム

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ

内案画金の両器



画金〇WO

〇君ハの心

器器器イヌジキ・父軒一ハーてくサ一リ

一タじサ齋交并雲山命真

△タハイーシ・ヲ・ヒホジクノでく口

会文筆謝齊燧△タハイーシ

トセ・ヲ・△タハイーシ

諸所の企画案内

【CWC 講話会】

現在は、「聖書深読入門」を行なっています。

講師：九里 彰神父（カルメル会）

日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

連絡先：神藤（CWCスタッフ）TEL（03）3642-5629

2007年

8月9月はお休み。

10月9日（火）

11月13日（火）

12月11日（火）

2008年

1月15日（火）

2月12日（火）

3月11日（火）



方法

1. まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2. その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3. 「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。
他者の発言に対し、一切批評はしない。自分のことのみ発言する。
(無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもOK。)
4. 「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解説」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターにお問い合わせ下さい。電話では取次いでおりません。
申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072・802・5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2007年度 ★

M1	07・05・17 (木)	2時から	05・23 (水)	2時まで	盛岡・白百合・シャルトル	了
K3	07・06・03 (日)	2時から	06・09 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	了
P2	07・06・17 (日)	2時から	06・23 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了
N1	07・06・26 (火)	2時から	07・02 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	了
Y2	07・07・22 (日)	2時から	07・28 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ	了
P3	07・08・10 (金)	2時から	08・16 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了
K4	07・09・09 (日)	2時から	09・15 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	了
B2	07・10・17 (水)	2時から	10・23 (火)	2時まで	札幌・厚別・ベネディクト	
N2	07・11・02 (金)	2時から	11・08 (木)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K5	07・11・11 (日)	2時から	11・17 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P4	07・12・03 (月)	2時から	12・09 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	

★ 2008年度(決まっている会場) ★

M1	08・01・11 (金)	2時から	01・17 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K1	08・01・27 (日)	2時から	02・02 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M2	08・03・10 (月)	2時から	03・16 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K2	08・04・13 (日)	2時から	04・19 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
K3	08・06・01 (日)	2時から	06・07 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

一日内観・ミニ内観のご案内

一日内観

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて

参加費は1万円

了2007年4月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

・2008年4月26日(土)午後2時から
27日(日)午後4時まで

・2008年6月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

ミニ内観

★沖縄・安里修道院・毎月第一水曜日

10時から3時まで・シスターかな

電話 098・866・8293

★東京・神奈川県内観経験者のミニ内観の集い

聖母訪問会・三浦修道院にて

了4月29日(日)了6月10日(日)

問い合わせ 小倉

FAX 045・824・1462

リーゼンフーバー講座・集い案内

2007～2008年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kultourハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ● 4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時了 }
6月22日(金)20時30分～24日(日)13時了 } 秋川神真窟。1泊2400円程度。
8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分了 }
10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時了 }
2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分 上石神井。5600円程度。
● 5月12日(土)13時～13日(日)16時了 } 宝塚市
8月1日(水)17時30分～7日(火)13時了 }
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し8月14日は休み。8月28日は上智大学内 Kultourハイム聖堂。
12月25日(火)はクリスマスの黙想(予定)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
~~●通う登録 9月18日(土)～8月26日(日) 18時～21時 上智大学内 Kultourハイム聖堂~~
- 祈りの集い ●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月14日、5月26日、6月28日、7月14日、8月18日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、
2008年1月12日、2月2日、3月15日
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
- 黙想会 ~~5月19日(土)10時～20日(日)15時、9月22日(土)10時～24日(月)14時、12月1日(土)10時～2日(日)15時、
2008年3月8日(土)10時～9日(日)15時、上石神井。1泊5600円程度。~~
- アガベ会 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
~~4月21日(土)、6月16日(土)、10月21日(日)、2008年1月20日(日)~~
- クリスマス会 12月15日(土) 17時～ 聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ 12月23日(日) 14時～ 上智大学内 Kultourハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2007～2008年

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各回のテーマ

- 了 8/31 イエスの復活—今に生きるイエス —— (上智大学内クルトゥルハイム2階)
- 了 9/7 聖霊—神の愛に導かれる
- 了 9/14 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
- 了 9/21 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 了 9/22-24 ●黙想会
- 9/28 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
- 10/5 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け
- 10/12 御子としてのイエス—イエスの神との関係
- 10/19 父と子と聖霊—神の生命に与る
- 10/26 信仰の決断—支えられて生きる
- 11/2 ○休み
- 11/9 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 11/16 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 11/30 人間の弱さ—罪とは何か
- 12/1-2 ●黙想会
- 12/7 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 12/14 愛の心—キリスト教の本質
- 12/15 クリスマスのミサとパーティ (教会信徒会館ヨセフホール) (予定)
- 12/21 隣人愛—他人のうちにイエスに出会う
- 12/23 ミサ (14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)



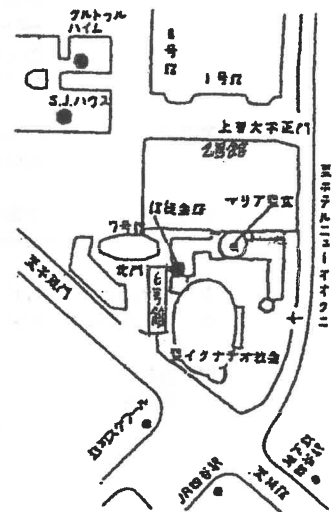
リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座 2007～2008年

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

毎回のテーマ

- 了 9/4 [根本的態度] 人生を生きる基盤—信頼・信仰・希望
- 了 9/18 課題の中心—愛による完徳
- 了 9/22-24 ●黙想会
- 10/2 真理と善の実現—判断・勇気・節制
- 10/16 共同体と社会の建設—共通善・正義・愛
- 10/30 個人の道—聖霊の導きとカリスマ
- 11/6 [日常生活] 対人関係の意義—出会いと協力
- 11/29 身体と生命—性と生命倫理
- 12/1-2 ●黙想会
- 12/4 家庭と独身生活—与えられた道の発見と深化
- 12/15 クリスマスのミサとパーティ (17時、教会信徒会館ヨセフホール) (予定)
- 12/18 仕事と余暇—能力の活性化と人への奉仕
- 12/23 ミサ (14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)



坐禅会



月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

(祝日を除く)

場所 : 上智大学内クルトゥルハイム 1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。



接心 2007年度

関東

4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時了

6月22日(金)20時30分～24日(日)13時了

8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分了

10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時

2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分上石神井、5600円

秋川神真窟

1泊2400円程度

指導と問い合わせ先:

クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス

電話 03-3238-5124(直通)5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



「会社帰りの黙想」^{メディテーション} —あわただしい毎日に平安のオアシスを

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。

リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を探り静かに考え、祈ることが出来ます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。

信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから開放され、夕べのひとときに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加は無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽にいらしてください。

日時 毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00

※12月25日(火)クリスマス・メディテーション(予定)

場所 聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

TEL 03-3263-4584

真命山

真命山の靈性

諸宗教対話・靈性交流センター



自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

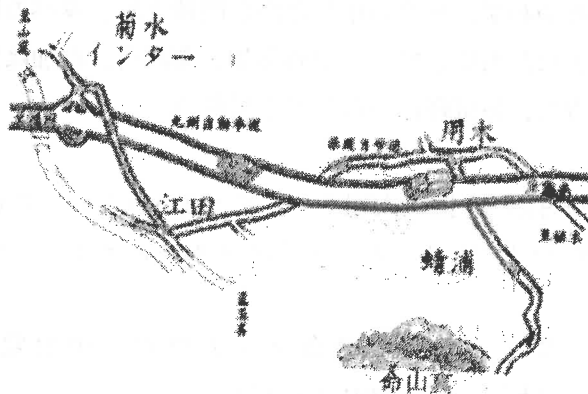
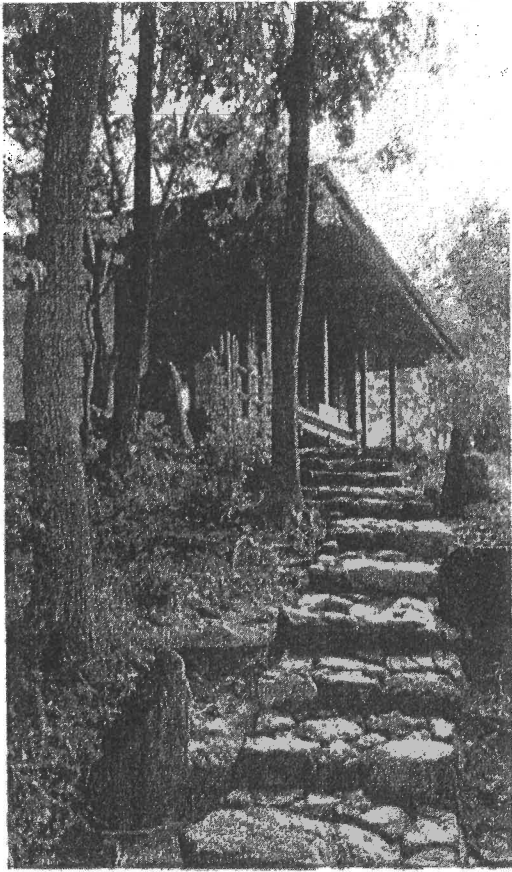
祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり



真命山

2007 年度行事のご案内

祈りの集い (午前10時～午後3時)

年間テーマ「聖ダミアノの十字架のもとで祈る」

- 了 1月11日(木) 聖ダミアノの十字架のもとで祈った
聖フランチスコ
- 了 2月8日(木) 十字架に釘づけられたキリストの体
- 了 3月8日(木) キリストの受難と死
- 了 4月12日(木) 死に勝たれたキリストの姿
- 了 5月10日(木) イエス様の十字架のもとに
立っておられるマリア様
- 了 6月14日(木) 十字架につけられたキリストの御顔
- 了 7月12日(木) // (続き)
- 了 9月13日(木) 三位一体の栄光を表す十字架
- 10月11日(木) 十字架につけられたキリストを
囲んでいる人々
- 11月8日(木) 十字架を担ってキリストに従う
- 12月13日(木) 十字架と馬小屋

指導者：真命山スタッフ

フランコ・ソットコルノラ神父 (院長)

シスター マリア・デ・ジョルジ

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。(要予約)

申し込み先

〒 865-0133

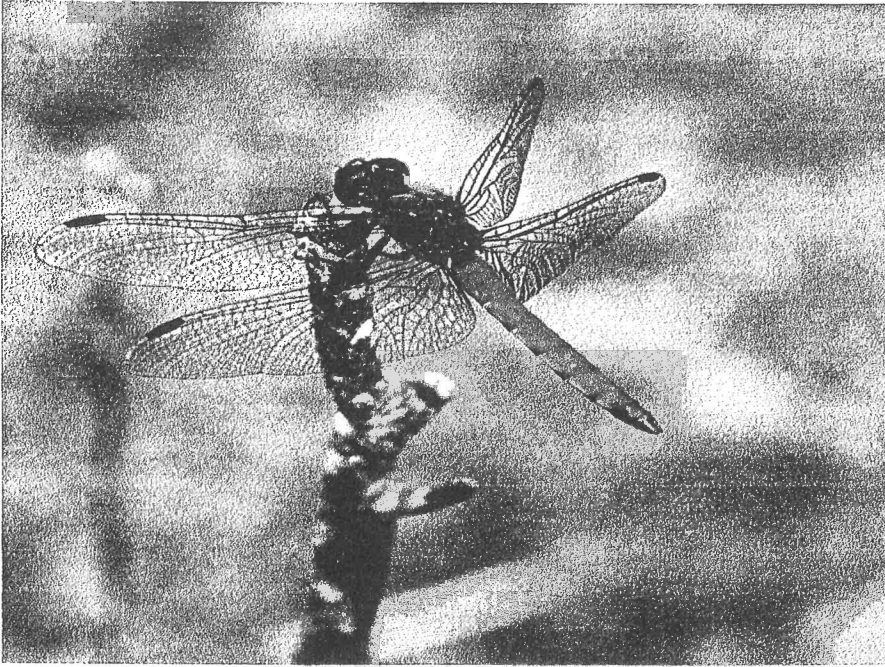
熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

祈りの集いのご案内



1 日黙想会

—イエスの息づかい—

- 講 話 : 星野 正道師
日 時 : 2007年10月8日(月) 10:00~4:00
対 象 : 20代 30代の未婚女性
参加費 : 1000円 申し込み: 10月7日(日)まで

問い合わせ・申し込み

〒182-0034 東京都調布市下石原3-55-1

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(担当: Sr.山本・Sr.峰・Sr.池田)

京王線調布駅下車徒歩13分(鶴川街道沿いマルガリタ幼稚園隣)

TEL: 0424-82-2012 FAX: 0424-82-2163

E-mail: prayer3551cnd@hotmail.com

URL: www.cnd-m.com

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎1丁目 3-1 (Tel:077-579-7580)

◎ 交通：JR京都駅から湖西線(唐崎)下車。琵琶湖の方へ徒歩約13分

◎ 日程

A. 8日間の個人指導による黙想 (初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終了)

2007年 7月 23日(月)～ 7月 31日(火) 了

8月 18日(土)～ 8月 26日(日) 了

9月 1日(土)～ 9月 9日(日) 了

B. 週末3日間の個人指導による祈りの体験 (神との親しさの中で日常を生きるために)

5月で 終了

C. 3日間の週末個人黙想 (週末に個人黙想をなさりたい方のために)

2007年 6月 29日(金)～ 7月 1日(日)了 | 10月 12日(金)～ 10月 14日(日)

9月 7日(金)～ 9月 9日(日)了 | 10月 19日(金)～ 10月 21日(日)

10月 5日(金)～10月 7日(日) | 11月 2日(金)～ 11月 4日(日)

D. 霊性プログラム：ワークショップ (自己発見から神へ) 終了

E. 上記の日程以外でも、個人で黙想をなさりたい方は、問い合わせして下さい。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 担当者： トニー・ブロードニャック師 (メソヂヤン教会) と シスター が
霊的同伴者としてお手伝いいたします。

◎ 受付： 受付(チェックイン)は、いずれの場合も、初日の午後3時からです。

◎ 申込先： 郵送、または、Fax でお願ひします。

郵送： 〒520-0106 大津市唐崎 1丁目3-1 ノートルダム修道院

Fax： 077-579-3804

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて下さい。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。但し、それ以前に満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ 問い合わせ： 電話： 077-579-7580 または、

Eメール： nd-inori@mbr.nifty.com 「件名は黙想」でお願ひします。

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2007年10月20日(土)

— マリー・エウジェンス師とテレーズ —

(幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師帰天40周年にあたって)

次回の予定 11月24日(土) *日程が変更になりました*

講話 伊従信子 ・ 片山はるひ

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

新刊 刊行!

第三巻 日本の神学を求めて

《好評既刊中》

第一巻 慈悲と隣人愛
第七巻 カルメルの靈性

Okumura Ichiro

奥村一郎選集

全9巻
2007年3月刊行開始

オリエンツ出版研究所
定価各2,100円
本体2,000円
四六判上製 平装 320頁

深い信仰と豊かな靈性、
そして透徹した知性が織り成す
奥村神学の全貌。



奥村一郎 (Okumura Ichiro) ・カルメル会司祭
1923年生まれ、旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中
川宗福老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、
カルメル会入会のため渡仏、帰国後は京都ノートルダム女子大
学教授、聖母女子学院短期大学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧
問などを歴任。

奥村一郎選集 全9巻の構成

- 第1巻 慈悲と隣人愛 (解説 西村恵信)
- 第2巻 多文化に生きる宗教 (解説 エン・ウン・エフラト)
- 第3巻 日本の神学を求めて (解説 小野寺功)
- 第4巻 日本語とキリスト教 (解説 阿部健吾)
- 第5巻 現代人と宗教 (解説 阿部健吾)
- 第6巻 永遠のいのち (解説 八木誠)
- 第7巻 カルメルの靈性 (解説 高岡泰子)
- 第8巻 神に向かう〈祈り〉 (解説 高橋重幸)
- 第9巻 奉獻の道 (解説 宮本久雄)

オリエンツ宗教研究所、
キリスト教書店で発売中。

上野毛教会、
聖テレジア修道院(黙想)でも
お求めできます。

3

日本の神学を求めて



奥村一郎選集

新刊刊行

第三巻 日本の神学を求めて

《日本の神学・・根源への問い／相互愛／
「信ずる」と「愛する」／新しい掟》

解説；小野寺 功

9月刊行予定

第六巻 永遠の命 解説；八木誠一

《嬰兒復帰／人間の栄光と悲惨／死を見つめる／
十字架の秘義／人間と世界と神》

11月刊行予定

第四巻 日本語とキリスト教 解説；阿部仲麻呂

《日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と
翻訳》

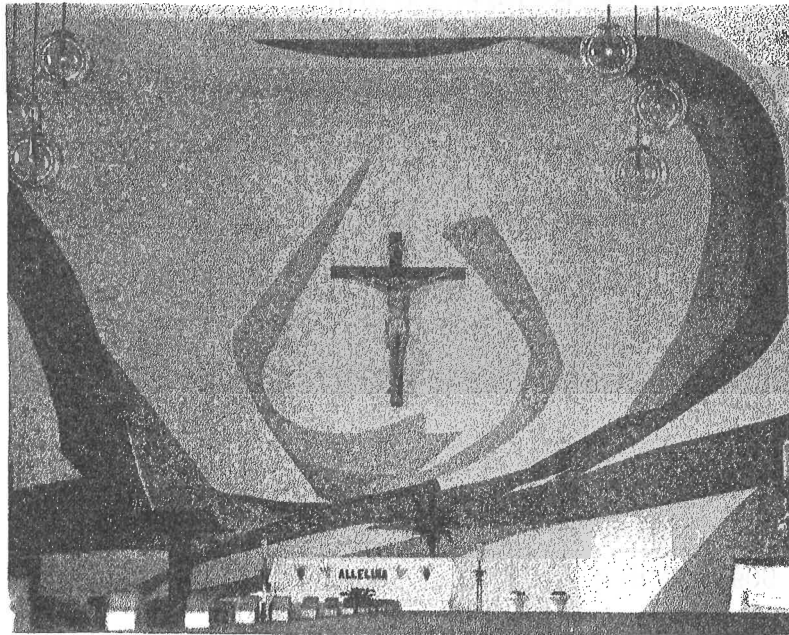


新刊紹介

谷口正子著

仏教とキリスト教の中の『人間』

『歎異抄』・宮澤賢治・石牟礼道子ほか



(ポール藤野の聖堂壁画)

- * 宗教と詩と世界経験が「人間」へと収斂していった。
現代世界における人類破壊の流れに抗しようとする著者谷口正子さんの切なる祈りがこめられている。
(京都大学名誉教授) 上田閑照
- * 仏教かキリスト教かの短絡的な二者択一でない普遍的な地平
を「人間」という事実から探ろうとする、真摯な魂の軌跡。第二ヴァチカン公会議の精神とも符合する。
(跣足カルメル会上野毛修道院院長) 九里 彰

国文社 定価 (本体 2400 円 + 税)

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

》投稿規程《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、九里^{くのり} 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会修道院
Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

ホームページ

「霊性センターニュース」の「カルメル会の企画案内」の部分は、次のホームページでも御覧になれます。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

『靈性センターニュース』ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。(これは郵送料です。)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会上野毛修道院
「靈性センターニュース事務局」

「上野毛靈性センター」への献金のお願い

なお「靈性センターニュース」は現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等の仕事しております。ご希望の方へ無料で配付しておりますが、コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

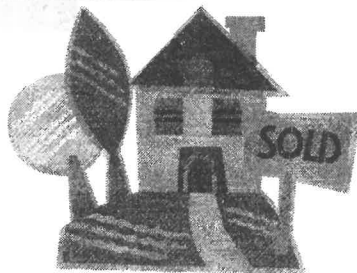
* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル靈性センターニュース

通信欄に「靈性センターニュースへの献金」とご記入ください。

* なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金して下さっても結構です。献金袋は用意されております。



編集後記

今年の夏は、フィリピンのマニラにあるカルメル会修学院(神学生の家)で過ごさせていただいた。どこかの国とは大違いで召命は多く、神学生は27名、養成担当は司祭2名、修道士1名の大所帯であった。そこでの生活のことは脇に置くとして、貴重な体験をいろいろとさせていただいた。

その一つは、川沿いに形成されたスラム街(住民は”squatters”〈公有地無断居住者〉と呼ばれている)に、カルメル会の神学生とBEC(基礎教会共同体)のメンバーに連れていってもらったことである。貧弱なバラックに何家族もひしめきあっており、大雨になるたびに一階は水浸し。みな二階三階へ避難するということである。道路まで出るには泥水の中を泳いで行かねばならない。さまざまな家の中を見せていただいたが、とにかく狭く、電気のない所も多く、プライバシーはなく、悪臭がただよい、衛生状態も悪い。日本人であれば、とても住めるような状態ではない。男たちは仕事もなく、昼はギャンブル、夜はアルコール。一帯はドラッグと売春の巢で、一般市民が立ち入ることは危険だということであった。

田舎で生活できなくなった人々が都市にやってくるわけだが、彼らの生活が軌道に乗るよう、私たちもささやかな援助を惜しんではならないように思う。

(P. 九里)

